

手稲溪仁会 事務作業にRPAを導入

年間6000時間以上の業務削減

手稲区の手稲溪仁会病院(田中繁通理事長、古田康院長・670床)は、事務業務、医事業務のチェック作業などに独自のRobotic Process Automation (RPA)を導入。作業の効率化で業務量の削減できたほか、導入の過程で業務の見直しにつながっている。

同病院を運営する溪仁システムエンジニアを配田消化に貢献している。医療現場での働き方改革が課題となる中、事務部門などのルーティン業務に多くの時間を費やしている点に着目。専門性を生かしてRPA化を進めている。

会では、情報システム部を置き、現在は、同病院10人のほか、同じグループの札幌西田山病院が3人、定山深病院、札幌溪仁会リハビリテーション病院、溪仁会山ノクリニックにそれぞれ2人、

め手順が決まっているマウスやキーボードを使う定型作業を、何回でも高速にミスなく自動で処理できる技術。各部署・現場を対象にヒアリングを行うと同時に、業務を可視化してもらい、RPA導入できるのか、導入後どれほど業務が改善できるのか等に

定型業務	外科NCDデータ入力
カテゴリ	院外システム接続
I	N 電子カルテデータ (DWH)
O	U T 外科NCD登録 (患者情報)
トリガ	10日/月
所要工程	9時間
シナリオ	電子カルテDWHより対象医師・患者データを抽出しEXCEL台帳に出力。順次入力台帳データよりNCDの患者情報、入院日、手術日等の基本情報を入力。※電子カルテ+インターネット共有環境
導入効果	①転記内容の正確性向上 ②業務時間削減 11時間/月(年間132時間) ③煩雑業務ストレスからの解放

RPA化に向けたシナリオカード

Hospital & Clinic

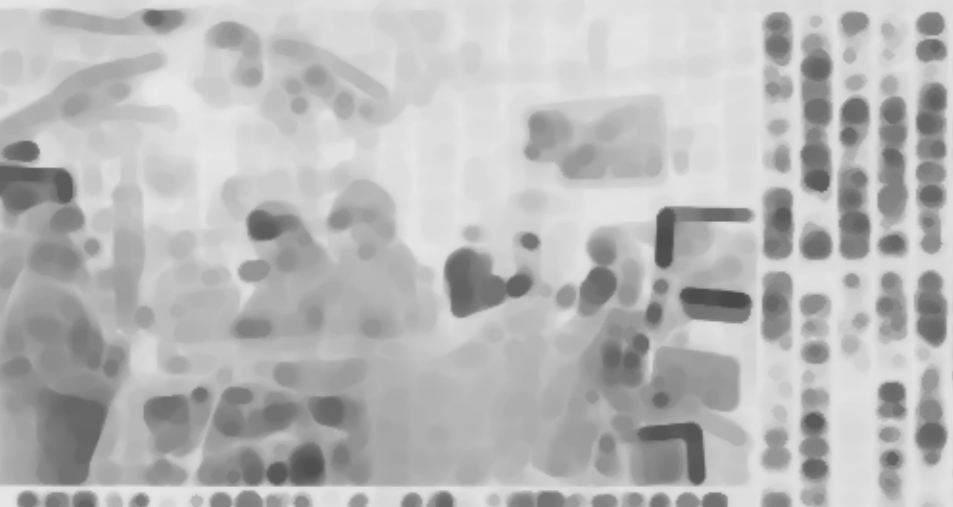
RPA化に向けたシナリオカード

外科NCDデータ入力



成長 訪問

「患者さんへの対応が大切」



「患者さんへの対応が大切」

「業務の効率化」



ついて時間をかけて話し合い、シナリオカードを作成して定型業務を作り出し、RPA化に向け、独自のシステムを開発している。

これまでに22件の業務をRPA化。例えば外科NCDデータ入力作業では、電子カルテから対象医師、患者データを抽出し、表計算アプリケーショントラックから順次、入力台帳データからNC

Dの患者情報、入院日、手術日等の基本情報を入力するという作業を自動化した。

持参入力では、退院患者ごとにオーダーングシステムから持参情報を医事会計システムへ入力。関連機能へ担当者が情報を日々一覽入力する作業にRPAを導入できた。

各種業務のRPA化によって、年間合計6200時間近くの業務時間が削減できた。さらに、導入に向けた業務の可視化によって、年間合計200時間以上の不要な作業を減らした。

一方、RPA導入に向けた業務の可視化は、現場スタッフの大きな負担になることも。RPAのシステムづくりを一人で担当する同部の宮永淳弥氏は、「業務に関連するさまざまなことを理解することが重要」という。

同部の立川圭太主任代理は「RPA化は業務の削減ではなく、あくまでも改善が目的。そのためにも、業務の可視化は必須だが、その作業は簡単ではない。しっかりと目的を理解してもらったことが重要」という。

